第２回富良野市地域ケア推進会議　会議録　　17 時 00 分～17 時 42 分

１．開　　会　　司会　井口課長　17 時 00 分

それでは定刻となりましたので、只今から第 2 回富良野市地域ケア推進会議を開催いたします。本日はお忙しい中、また降雪の中、本会議にお集まりいただきましてありがとうございます。

私は本日の司会は井口が務めさせていただきます。よろしくお願いします。

本日、桐澤委員におかれましては、所用のため欠席とのご連絡をいただいております。なお、本日傍聴される方はいません。

それでは、開会にあたりまして小山内会長よりご挨拶をお願いいたします。

２．会長挨拶　　小山内会長

みなさん、こんばんは。本日は、お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。本日の推進会議は第８期の高齢者福祉計画及び介護事業計画策定の基礎となる調査内容について、検討を行いたいと思いますので、委員のみなさんのご協力、ご意見等、よろしくお願いいたします。

事　務　局：

どうもありがとうございました。

それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。先日送付しています「第２回富良野市地域ケア推進会議次第」、「ご質問の回答」、「第８期高齢者福祉計画・介護保険事業計画　基礎調査の概要」、「富良野市高齢者・介護保険に関するニーズ調査」、「在宅介護実態調査」という資料でございます。

なお、「在宅介護実態調査」の中で一部訂正がございました。本日みなさまの机の上に一枚もので用紙を用意させていただきました。後ほど調査内容と併せまして説明させていただきます。お手元になければ事務局にお申し出ください。

それではこれからの進行は小山内会長にお願いします。

３．議　　題　　進行　小山内会長

小山内会長：

それではお手元の会議の次第に沿って進行させていただきます。

本日の議題

（１）第１回富良野市地域ケア推進会議でのご質問の回答

（２）第８期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定にかかる基礎調査について

それでは（１）の質問について事務局より説明をお願いします。

説明者　井口課長：

それでは、みなさんのお手元の資料をご覧いただきながらですが、第 1 回地域ケア推進会議でご質問をいただきました２点について説明いたします。

Q1　老人クラブの会員でことぶき大学にも在籍している会員はどれくらいいるのか。というご質問でございましたが、老人クラブとことぶき大学の担当課が異なるため、どちらにも在籍している方について把握できていないということでした。

Q2　平成 30 年度から実施している「安全運転支援車試乗体験会」への参加の促し方及び参加状況について、でございますが、周知につきましては、広報ふらの、ラジオ富良野、チラシでの回覧、老人クラブ連合会を通して周知しております、参加状況について、平成 30 年度が 28 名、令和元年度は 37 名の参加となっています。

以上でございます。

小山内会長：

ありがとうございました。

今の回答に関しまして、何かご意見等ございませんでしょうか。

山田委員：

ありません。

小山内会長：

それでは続けて（２）第８期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定にかかる基礎調査について、①~③まで一括して事務局から説明をお願いします。

説明者　堀口介護企画係長

（２）第８期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定にかかる基礎調査について①から③まで一括してご説明いたします。座って説明させていただきます。

高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画は３年ごとに見直しを行っておりまして、富良野市では第８期計画策定に向けた準備を進めるところです。

そこで計画策定に伴う高齢者のニーズ調査について本日の議題にあります２種類の調査の実施を予定しております。

それでは、お手元の資料のうち一枚目の基礎調査の概要をご覧ください。

①基礎調査の概要

まず一つめは「高齢者・介護保険に関するニーズ調査（日常生活圏域ニーズ調査)」でございます。

調査の目的は、地域の高齢者の状況を把握することで、地域課題を把握して地域の目標を設定すると同時に、介護予防事業に誘導すべき高齢者を把握し、計画策定の基礎資料とすることです。

調査対象は、市内住む 65 歳以上の一般高齢者と在宅生活をしている要支援１、２の方です。要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況を把握することで、地域診断に活用し、地域の抱える課題を特定します。

調査票の配布は、1,500 件で無作為で抽出し、無記名での調査とします。回収率は 63.3% 回収数は 950 件を見込んでおりまして、回収率は前回とほぼ同じで見込んでおります。

調査項目は、厚生労働省が全国統一調査として示した「日常生活圏域ニーズ調査」の項目、必須項目３５項目＋オプション３０項目、富良野市の独自項目が２５項目程度載せています。富良野市の独自項目は、本日の議題の②でご検討いただきたいと思います。

調査票は４月下旬から５月上旬ごろに発送し、５月末までに同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函していただきます。

次に基礎調査の概要の資料の裏面をご覧ください。

2 つ目の調査は「在宅介護実態調査」です。

調査の目的は、「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要になるのか」といった観点から、「「要介護者の在宅生活継続」や「介護者の就労継続」の両方を支えるために有効な介護サービスのあり方を検討し、計画策定のための基礎資料とすることです。

調査対象は、市内に住む要介護認定を受けており、平成 29 年４月以降に要介護認定の更新・変更申請を行った方で、在宅生活をしている要支援２～要介護５の方とします。

調査票の配布は３００件で無作為抽出とします。回収率 50%、回収数 150 件を見込んでおります。

調査項目は厚生労働省が全国統一調査として示した「在宅介護実態調査」の項目をそのまま実施します。

調査票は４月下旬から５月上旬に発送し、５月末までに同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函していただきます。

以上、この２つの調査結果は、今年 8 月に開催する地域ケア推進会議で報告する予定です。

次に②高齢者・介護保険に関するニーズ調査票（日常生活圏域ニーズ調査）についてご説明します。お手元の調査票をご覧ください。

調査項目の問１から調査票をめくっていただきまして４枚目の問８までは全国の統一調査として国から示されている必須項目とオプション項目をそのまま取り入れています。国

から示されている項目は、前回の第７期計画策定時の調査項目とほとんど変わりありませんが、第８期では、さらに問５で「地域での活動について」で地域参加の状況が追加され、問８で「認知症にかかる相談窓口の把握について」の項目が新設されました。

問９以降は富良野市の独自項目となります。独自項目では市独自の高齢者福祉サービスや地域包括支援センターについて調査します。

本日は独自項目（案)、問９以降について、みなさまにご検討をお願いします。

次に在宅介護実態調査についてご説明いたします。

お手元の資料の「在宅介護実態調査」をご覧ください。先ほど資料の説明にもありましたとおり訂正がございましたので、その部分を説明させていただきます。「在宅介護実態調査」のめくっていただきまして３枚目の(10)ですが、上の（９）と質問項目が同じになっていました。机に配布させていただきました資料と差替えをお願いします。(10)の正しい質問項目については、網掛けで表示しています。こちらに訂正をお願いします。

それでは在宅介護実態調査について説明いたします。こちらの調査項目については全て国から示された項目で、こちらは第７期策定時に示された内容と同じです。内容についてはＡ票、こちらは要介護者ご本人の在宅での介護の状況について、Ｂ票では主な介護者の就労状況について問い、先ほど概要説明の中でお伝えしました要介護者の在宅生活継続、介護者の就労継続、両方を支えるために有効な介護サービスの在り方を検討し、第 8 期に活かしていきたいと考えています。

以上で第 8 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定にかかる基礎調査についての説明を終わります。

小山内会長：

ありがとうございました。

まず１番目の基礎調査の概要説明について、何かご質問ご意見ございませんでしょうか。

調査対象 1,500 件というのは、富良野の人口であれば 1,500 件と決められているのでしょうか。

これに対してご意見ご質問ないようでしたら、続きまして高齢者・介護保険に関するニーズ調査（日常生活圏域ニーズ調査）に関して、これに対してご質問ご意見ございませんでしょうか。

問１～問８までは厚生労働省で決められたものなので、それ以降の項目で富良野独自の項目に対して何かありませんでしょうか。

草野委員：

こちらのニーズ調査に含むべきか、在宅介護実態調査に含む方がいいのか、またどちらにも含んでもいいと思いますが、サービスに携わっている中で直面するのが、スムースにサー

ビスを利用してくれる方については、サービス提供を進めていく上で特に問題は大きく出てきませんが、サービスが必要であるにも関わらず「使いたくない」とご本人が拒まれる場合、また家族が「家に他人に入られるのが嫌」と拒まれる場合があります。

サービスが必要となったときにサービスを利用されることに対して抵抗感というか、そこに対する本人・家族が気になる要因、サービスをどういうふうに受けたいのか、拒む理由とかを選択的に聞き取りができ、サービスを拒む事例に対してはどのような対策をしていくことができるのかを、もし何か調査できる方法があればよいと思います。

小山内会長：

そのあたりどうでしょうか

事務局：井口課長

今お話があったのは、サービスを受けていない方に対して、ということですね。
事務局の方で独自項目の中身を検討させていただきます。他の委員のみなさんからご意見ありませんでしょうか。

次回の会議で項目を付け加える、加えないも含めて提案させていただきます。

草野委員：

サービス自体のイメージが持てていなかったりする方がどれくらいいるのか、介入する際にその都度説明はしますが、サービス体系について、どのくらいの市民の方が理解されていて、それがなかなか浸透していない部分があるのであれば、サービスが必要になる前から周知方法等の対策も必要かと思います。

小山内会長：

実際問題として救急車を呼びたくないという方もたくさんいますし、公的なものを利用するのが恥ずかしいという感覚を持っている高齢者が多いと思いますし、それに対してどういう対応をしたらよいかというところですね。

福永委員：

介護予防というもの自体がどういうものなのかをわかっていない、かもしれません。もう一つは、そもそもわかっていない方と、わかっていても利用されないという理由とは、別の感じがありますね。

地域のサロンに参加される方と参加されない方はどうでしょうか。予防ではないのかもしれませんが、あまり人と関わりたくない方もいるということでしょうか。

久保委員：
　自由記載を利用することはできないでしょうか。

岡本委員：
　扇山でサロンをやっていますが、腰が痛くて曲がっている方が家では若い人に迷惑をかけたくないという思いはあるものの、サービスを受けたがらない状況の中で、包括支援センターの保健師さんですとか専門の方に入ってもらって楽しみながら勉強会をして、介護の方に繋げていくようなことを話し合っています。

福永委員：
　調査の目的が、「介護予防事業に誘導すべき高齢者を把握する」が目的ですよね。

小山内会長：
　何かいい案がありましたら、事務局にお願いします。

久保委員：
　自由記載についても、何か例をあげて記入しやすいようにしたらよいですね。

事務局：井口課長
　事務局の方で検討させていただき、次回提案させていただきます。

小山内会長：
　よろしくお願いします。その他、ニーズ調査について何ありませんでしょうか。
　続いて在宅介護実態調査について、何かご意見ご質問ございませんでしょうか。

菅野委員：
　在宅介護実態調査の部分ですが、調査回収が150件ほどの返信の見込ということですが、自宅に郵送するかたちですね。介護認定を受けている人で、知らずに施設に入所している人には、そちらに郵送するのでしょうか。

事務局：高橋介護企画係主査
　基本的には在宅生活をしている人になります。4月1日現在の在宅生活の方に送ります。Ａ表の（１）どちらで生活をしていますか？という問いがありますので、介護施設に入所されている場合は、この先の回答は不要ということになります。
　在宅生活を送るため、あるいは介護者が離職しないための調査なので、４月 1 日現在で在宅生活をしている人という基準で抽出し、それ以降に変わった場合については、問（１）

だけでということになります。
菅野委員：
　先ほどの説明では、支援２から要介護５までの人ということでしたが、要介護４・５の人が自分の意見が記入できない場合があると思いますが。

事務局：高橋介護企画係主査
　調査の回答については、一緒に住んでいるご家族、あるいは主な介護者の方が記入していただいてもかまいません。
　調査票の回答にあたって、というところでご家族の方が代わりに回答されてもかまいません、と入れています。

福永委員
　基本的にこの在宅の中には、有料老人ホーム、サ高住は入っていますか。

事務局：高橋介護企画係主査
　大きなくくりの中では、在宅・居宅という部分で有料とかは含みますが、この調査の在宅は違います。この調査は自宅ということになります。

菅野委員：
　できるだけ多くの方に回答していただきたいですね。

小山内会長：
　これは国がこういうかたちで調査するようにということですね。

事務局：高橋介護企画係主査
　第７期から同じようなかたちで実施しています。

小山内会長：
　国の調査表と全く一緒ですね。
他に何かご質問ご意見ありますか。

草野委員：
　調査としてもう少し分母数を増やすということはいかがでしょうか。

事務局：高橋介護企画係主査
　もともと富良野の要介護者の認知者数がそこまで多くないので、実際第７期の際にこの

倍を送付しましたが、ほとんど回答の部分で有料やＧＨに入所していたり、施設に入所されていたという方が多かったので、国の方ももともと大都市圏については、６００件という数字を出していますが、それに合わない市町村については数を減らして送付してもかまいませんということでした。
　今回は３００件とさせていただきました。

小山内会長：
　他に何かご質問ご意見ありますか。
この調査表については変えようがないということですね。

福永委員：
　介護で困っている方について知りたいですね。

小山内会長：
　これに独自項目を入れるということにはなりませんか。
先ほどの調査には富良野市独自項目をいれていますよね。

事務局：高橋介護企画係主査
　国の 12 までの調査項目を減らさず、新たな項目を入れることはできると思います。

福永委員：
　困っている人を聞き出したいですね。これではそこまでわかりませんね。

小山内会長：
　困っているというよりは実態を把握するための調査ですね。ただ、基本的には在宅生活で困っている方の話をどう聞き取るのか、それはまたこれとは違う形で頑張るしかなくて、今の富良野の実態がどういうものかを把握して、それに対応するということですね。

福永委員：
　親の介護のために仕事を辞める

事務局：高橋介護企画係主査
　調査目的が、先ほど概要でお話したとおり「介護離職を無くす」ためのものなので、回答もらって富良野市にどのようなサービスがあれば離職を防ぐことができるのかを検討します。

菅野委員：
　今の話は現実あります。娘さんが富良野市に住所がない親の面倒をみていて、いざ申請しても、地方の住所なので富良野の介護保険は使えないことがあります。

小山内会長：
　この調査の結果を基に富良野市できめ細かいことを考えて決めてくれると思います。
　とにかくさしあたってこれで実施するしかないですね。ただ、介護者にとって困っていることに対して身近な対応がしていく必要がありますね。

事務局：井口課長
　介護離職につきましては、なかなか実態の数がつかみにくいところではありますが、ハローワークの方で介護を理由に離職された方を問い合わせたり、認定調査の時にご家族から介護のために仕事を辞めているということを調査員からの報告で受けたりしています。その中では、介護のために仕事を辞めたという方は年に１～２件で、把握している中では介護離職は少ない実態です。

菅野委員：
　調査対象が 300 件の中で介護認定の介護度はどのような割合で抽出しますか。

小山内会長：
　無作為抽出で在宅を考えた時に、要介護４・５の方はほとんどいないと思われます。
あと、何かご質問ご意見ありませんか。

　私の知っている話では、「おじいちゃんの年金がいいから仕事を辞めておじいちゃんの介護をする」という方を何人か知っています。それもどうかと思いますが、90 代の高齢者で戦争を経験された方はいい年金をもらっています。そのあたりの把握の方もお願いします。

小山内会長：
　他に何かございますか。
　なければ、４その他、今後のスケジュールについて、事務局からお願いします。

事務局：井口課長
　本日ご意見いただきました調査の追加項目について事務局の方で再度検討させていただきます。
　次回の第３回富良野市地ケア推進会議３月 16 日月曜日午後５時から予定しています。
　みなさまには改めて連絡いたしますので、予定の方、よろしくお願いします。

小山内会長：
　はい、ありがとうございました。
最後になりましたが、本日全体をとおして何かご質問、ご意見ございませんか。
ないようでしたら、これをもちまして第２回富良野市地域ケア推進会議を終了させていただきます。
　本日はどうもありがとうございました。

17 時 42 分終了